

市民ネットワーク まちづくり通信 No.57



平成20年6月5日～6月24日

発行：市民ネットワーク

編集：市民ネットワークわかば

〒264-0033 千葉市若葉区都賀の台 4-5-15

TEL.043-284-2339 FAX.043-284-2362 メールアドレス wakabanet@chibanet.jp

若葉消防署移転

消防署が街から消える！

千城台駅近くの若葉消防署が、金親町に移転することについて質問しました。

平成7年に土地開発公社が金親町の土地を先行取得しているわけですが、「移転計画に見合った土地が見つかり、当局で検討した結果、適地であると判断した」との説明もありませんでした。

当時、千城台駅周辺の再開発計画があったのに、現在地に建替えることなどの検討が

あったかどうか、まるで不明です。

移転予定地は、現在地から直線で1.5キロの街はずれ。人口密集地への出動の遅れや救急講習会などへの参加の際も、交通の便の悪さなど、適地なのか疑問です。

移転先用地の取得は市民の声も聞かずに決まり、不透明さがぬぐいきれないことや、13年もの間、市民に説明もなかったことは大いに問題です。公共施設の用地取得や建設に關し、より高い透明性を市に求めました。

山田京子の市議会報告

4月より常任委員会が公開され、早速市民が傍聴に訪れ、関心の高さを伺わせました。「後期高齢者医療制度」の国への意見書は、廃止案と見直し案が提出されました。本会議で議員同士の質疑が12年ぶりに交わされましたが、市民ネットワーク・民主・共産・無所属提出の廃止案は否決されました。

モノレール

納得できる？

利用者サービスの低下

来々年3月から、モノレールカードや6ヶ月定期の継続割引が廃止されることについて質問しました。

JRと私鉄の相互利用ができるICカード導入に伴うものですが、そのためモノレールの料金面でのサービスが低下することは納得できません。

昨年の一般質問で、学生定期の割引率アップを求めたにもかかわらず、かえって料金が高くなってしまっているようです。

ICカード導入に13億円、さらに車両の更新も必要で、そのためにサービス削減を決めたようです。県庁以遠の延伸の前に、エレベータ設置や既存路線の利用者サービスに重点を置き、経営の安定化を図るべきと要望しました。

母子支援

進み始めた支援策！

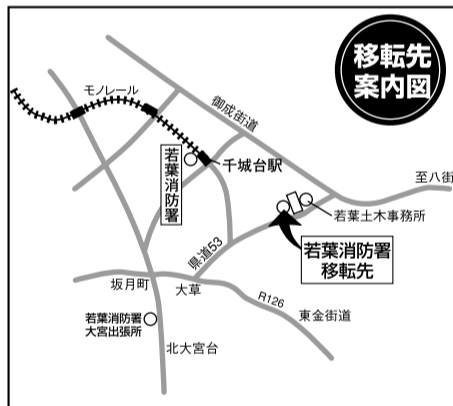
この4月から母子手帳がすべて保健福祉センターで交付されることになりました。

保健師の妊婦への指導がしつかりできるようになり、出産後の訪問指導の希望が増えることが予想されます。訪問指導をする助産師の体制の充実を求めました。

また、妊婦検診の公費負担が2回から5回と増えましたが、病医院だけでなく助産所にも適応するよう要望しました。「県内統一の基準となるように関係団体と検討する」との答弁で、半歩前進です。

児童虐待などの問題を協議する「要保護児童対策地域協議会」が今年、ようやく千葉市にも設置されます。虐待の芽を訪問時に発見する機会が多い助産師や保健師を構成員に加え、実のある会にするよう要望しました。

*地域福祉の質問に関しては2面に掲載。
*議会質問は市民ネットワークのHPをご覧ください。



栗山町議会視察報告

議員も緊張。町民と激論の議会報告会

日本初の議会基本条例を2年前に制定し、視察が殺到する北海道栗山町を市民ネットワークの議員4人で訪ねました。

栗山町の議会基本条例は

1. 重要議案への議員の態度（賛否）を公表
2. 年1回の議会報告会開催の義務化
3. 議員質問への町長や職員の反問権の付与
4. 町政全体において重要な5項目の計画を議決事項に追加
5. 町民などと意見交換のための一般会議の設置 など11項目。

はじめは陳情型だった住民も、勉強して財政への質問などが増えたといいます。「住民に近づくことが大事、忙しくてもやらなきゃいかん」という議会の姿勢には見習うべきものがあります。議員は必死で勉強し、住民も育ちます。

背景には、議員は13人、事務局は3人のコンパクトな議会であることや会派がなく、是々非々で臨むこと、毎年議長が変わる千葉市と違い、議長の任期が4年なので腰をすえて改革できること、などがあげられます。

やはり、核になるのは2期目となる町長の熱意。事務局との連携もかかせません。

山田

袖ヶ浦市議会傍聴記

画期的！一問一答

現在の千葉市議会には、最大3回の一括質問、一括回答形式。傍聴して感じるのには、どの質問の回答なのかかわかりにくい事と、もう一歩踏み込んだ質問が出来ないといったさ。ところが袖ヶ浦では1回目は一括質問・回答だが2回目からは一問一答を取り入れられているということで、傍聴に行ってきた。

一問一答・とにかく面白い！議員が力を入れていて問題を担当課と何度も何度もやり合っている、担当課の旗色が悪くなると、声が小さくなり、回

答もしどろもどろになる事さえあった。

疑問に感じたこと、納得できない事がある場合で確認できること、また一問一答になると普段使いの単語が多くなることなど、傍聴者にはとてもわかりやすい。

時間の配分など苦労もあるようだが、千葉市でも一度、取り組んでみてはどうだろう。

後期高齢者医療制度

廃止を求める署名へのご協力ありがとうございました。

8月まで署名活動を続け、その後、国会へ提出します。引き続きよろしくお願いたします。